

かもう公民館 図書室だより

平成26年度 3月号
蒲生公民館図書室 ☎52-1771

3月 (弥生 やよい)

3月21日(土)は春分の日。昼と夜の長さがほぼ同じになるこの日を境に、少しずつ昼が長くなっていきます。1948(昭和23)年より、「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」として祝日に制定されました。冬を終え、自然の温もりを感じられる季節です。(参考資料:「12ヶ月のきまりごと歳時記」)



住所・電話番号の変更はありませんか？



春は入学・転勤など、お引っ越しの多いシーズンです。新生活を始めるにあたり、住所や電話番号が変更になる方もいらっしゃるのではありませんか？

利用者カードを作成したあと、氏名・住所・電話番号の変更があった場合は、変更手続きが必要です。新しい情報が記載された証明書(運転免許証・健康保険証など)をご持参のうえ、最寄りの図書館・図書室窓口にてお知らせください。また、市外に転出される方は、未返却の本が無いかご確認をお願いします。



●3月カレンダー

休室日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

開室日：火～日曜日

(月曜・祝日は休室)

開室時間：9:00～17:00

(12:00～13:00は休室)

貸出冊数：図書5冊・雑誌2冊

貸出期間：15日間



新着図書のご案内

※中央・加治木の本も予約できます。

始良市立図書館ホームページ

<http://lib-airajp/>

「悲嘆の門 上・下」 宮部みゆき 著



ネット上の殺人者の噂を追う大学生・孝太郎。“動くガーゴイル像”の謎に憑かれる元刑事・都築。ミステリーもファンタジーも超えた、宮部みゆきの新世界。

典型的なカリフォルニアガールだった著者が半年間パリに住んで学んだ、情熱的に、お金をかけずに、生活を心から楽しむ方法が満載の一冊。



「フランス人は10着しか服を持たない」ジェニファー・L. スコット著

「へいわってすてきたね」

安里有生 詩
長谷川義史 画



「このへいわが、ずっとつづいてほしい。みんなのえがおがずっと、つづいてほしい」——6歳の少年の詩を長谷川義史が魂で描いた、沖縄発・平和へのメッセージ。

一般書

- 「仏教から生まれた意外な日本語」 千葉公慈
- 「大人のふだん着」 伊藤みちよ
- 「おうちで、できたて！デパ地下そうざい」 岩崎啓子
- 「マスカレード・イブ」 東野圭吾
- 「それでも前へ進む」 伊集院静

児童書

- 「ラネコぐんだんきしゃぽっぽ」 工藤ノリコ
- 「うんこしりとり」 tupera tupera
- 「おいぬさま」 荒戸里也子

今月の特設展示コーナー

【特集 春を感じる本】

季節はもう春。みなさんの周りにも、少しずつ春の訪れを感じられるものが出てきているのでは？



例えばたけのこ。蒲生には竹林が多く、早くは年末からおいしいたけのこが採れることでも有名です。他にも花や生きものなどが、春の訪れを教えてください。ふるさとのあたたかな春を残さず楽しむために、ぜひご覧ください。

蒲生公民館図書室利用者 おすすめの本

*「紙つなげ！彼らが本の紙を造っている」 佐々涼子 著

四年前の東日本大震災。日本製紙石巻工場長の倉田さんが即座に掲げたのは、無謀ともいえる「石巻工場半年復興」の宣言でした。それは沈んでいる社員らを立ち上げさせ、罹災した地元の人々にいち早く明るい希望を抱かせる復興の象徴とならんことを願ったからなのです。あの惨事を忘れかけつつある今、改めて被災者の言うに言われぬ苦悩と献身的で賢明な行動を認識させ、また、津波災害のおぞましい実態を教えてください。一冊です。

(ペンネーム・山田正庸さん)

